

ふるさとの いのちをつなぐ こうちプラン
～生物多様性こうち戦略～

(案)

平成 26 年〇月

高知県

策定にあたって

(高知県知事 尾崎 正直)

はじめに

“生物多様性こうち戦略”というのと、とっつきにくく感じられる人が多いでしょう。しかし、その目指すところはシンプルで“豊かな生きものの恵みを受けて、美味しく、楽しく、ずっと暮らしていくことのできる高知県”にすることです。その障害になっている課題を見つけて、それを解決するために私たちが何をなすべきかを考えて実際に行動していくことです。目標はシンプルですが内容は複雑です。内容を理解することと行動する時の拠りどころになるのが“生物多様性こうち戦略”です。

私たちが安全で心豊かに暮らしていくには、安全で安心な食べものと有害な物質や危険の少ない快適な生活環境が必要です。それには多くの生きものが暮らしている多様な森、川、海が相互に関連し合いながらバランスを保っている豊かな自然がなくてはなりません。そのような豊かな自然では、生きものに必要な物質や水の循環が成り立っていて、私たちの生活基盤であるきれいな空気や水を提供してくれるだけでなく、植物が育つための土壌を保つ力も兼ね備えています。豊かな植物たちはそれを食べものや棲み場所に利用している多くの動物を育てています。

このように相互につながりあった豊かな自然と生きものに囲まれて私たちや、私たちの子孫が自然や生きものの恵みをずっと受け続けていくことができるように、豊かな自然を守っていくことが、今を生きる私たちの使命です。

自然の恵みのあるところに文化が育ちます。高知県は高い山と深い海に囲まれ、多様な自然に恵まれた土地です。川は山深くまで入り込み、ある人はそこで暮らし、またある人は海のそばで暮らしてきました。その中で私たちは食べものをはじめ、暮らしに必要なさまざまな有用物を得て利用することによって生活し、同時に地域に特有な料理や生活様式、祭りなどの文化を生み出してきました。私たちの暮らしは自然から影響を受けつつ、反対に自然に影響を与えながら、お互いの相互作用を通して形作られてきました。

しかし、自然はいろいろなものを与えてくれる一方で、時には私たちの財産や命を奪うこともあります。高知県は台風の常襲地帯であり、過去に大きな地震も経験しています。私たちの祖先は自然への畏怖の念を忘れませんでした。近代化の波の中で多くの人が自然から離れて都市に住むようになり、都市だけで一人歩きできるような錯覚を生んできました。その結果、自然に触れる機会も少なくなり、泳いでいる魚はおろか畑で育てている野菜の姿さえ知らない若者がどんどん増えています。このまま自然の恵みや危険を身近に感じる人が増えていくと、自然の大切さや恐ろしさに気付かずに、自然は壊しても何をしても大丈夫だと思ってしまうでしょう。都市が栄える一方、農山村や漁村では人口が減少の一途をたどっています。人間が手をかけることによって維持されてきた里地里山の豊かな自然は、人が流出していなくなってしまうため、失われつつあります。

“生物多様性こうち戦略”では、残された自然とともに生きながら、私たち人間が将来にわたって発展していくための基本的な考え方と行動計画を示しています。第1章から第3章で高知県の自然と生きもの及び人の暮らしの現状と課題をまとめます。まず、私たちの暮らしている高知県の現在の姿を知ってもらいたいからです。次に、第4章で戦略を策

定することの意義を述べ、その必要性を紐解きます。生物多様性国家戦略や多くの他県の戦略では、戦略策定の意義を最初に述べているものが多いのですが、“こうち戦略”では、なじみの薄い生物多様性という概念をいきなり県民のみなさまにぶつけて、戸惑わせてしまうことを避けてきました。そして、第5章で改めて課題の整理を行い、第6章と7章で行動計画と戦略の進め方を示します。とりあえず“生物多様性こうち戦略”の中身を知りたい、という人は第4章から読んでいただいても十分ご理解いただける構成になっています。

この戦略が取り組むべき課題は複雑で、時間の経過とともに変化もしていくでしょうし、新しい課題も生まれてくるはずです。“生物多様性こうち戦略”は常に見直すことが必要で、5年ごとに戦略の改定を行います。高知の人と自然が作り上げてきた高知の風土は、高知にしかありません。自然の恵みを受け、どのようにしたら高知（県）で幸せを感じながら健康に暮らしていくことができるのか、そして自然の恵みを子孫につなげていくことができるのか、みんなで一緒に私たちの暮らしと自然を守っていく方法を考えましょう。このような意識が日々の暮らしの中に根づいてくることを願っています。

生物多様性こうち戦略（仮称）策定検討委員会

はじめに

第1章 こうちの自然	1
1 地勢・気象・植生	1
(1) 地形・地質	1
(2) 気象	3
(3) 植生	4
(4) 高知県の潜在的な自然環境の特徴	7
2 エリアの特性	8
(1) 山（奥山）	8
(2) 川	11
(3) 里	17
(4) 海	20
(5) まち	23
第2章 こうちの生きもの	25
1 山の生きもの	25
(1) 植物	25
(2) 動物	26
2 川の生きもの	29
(1) 溪畔林・河畔林	29
(2) 藻類・水草	30
(3) 貝類	31
(4) 十脚甲殻類	32
(5) 魚類	33
(6) 両生類・爬虫類	36
3 里の生きもの	37
(1) 植物	37
(2) 動物	38
4 海の生きもの	40
(1) 海岸植生	40
(2) 海藻類	41
(3) サンゴ類	42
(4) 貝類	43
(5) 十脚甲殻類	43
(6) 魚類	44
(7) 爬虫類	45
(8) 鳥類	45
(9) 鯨類	46
5 まちの生きもの	47
(1) 植物	47
(2) 動物	48
第3章 こうちの人の暮らし	50
1 高知県の農山漁村の現況と自然との関わり	50
(1) 農山漁村地域の現況	50
(2) 自然との関わり	51
2 生業（なりわい）	53
(1) 農業	53
(2) 林業	56
(3) 水産業	57
(4) 観光	60
(5) 伝統的な産業	62
3 伝統文化	65
(1) 食文化	65
(2) 祭祀など地域の伝統	66

第4章 戦略策定の意義	68
1 戦略策定に係る国内外の動向	68
(1) 生物多様性条約と国家戦略	68
(2) 生物多様性基本法の施行	68
2 生物多様性の危機	69
(1) 開発など人間活動による危機	69
(2) 自然に対する働きかけの縮小による危機	69
(3) 人間により持ち込まれたものによる危機	70
(4) 地球環境の変化による危機	70
3 高知県における戦略策定のねらい	71
第5章 高知県の課題	73
1 各エリアの課題	73
(1) 山	73
(2) 川	73
(3) 里地里山	74
(4) 海	74
(5) まち	74
2 4つの危機に対する高知県の課題	74
3 複合的・横断的な課題	77
(1) 一次産業の振興	77
(2) 生物情報の収集・共有	77
(3) 環境教育・人材育成	77
(4) 生物多様性の認知度の向上	78
第6章 こうち戦略行動計画	79
1 戦略の理念	79
2 将来目標と計画期間	80
3 行動計画	83
プラン1「知る・広める」	84
プラン2「つなげる」	87
プラン3「守る」	89
プラン4「活かす」	95
行動計画線表	101
第7章 戦略の推進	109
1 役割分担	109
(1) 県民の役割	109
(2) 事業者の役割	109
(3) 教育研究機関の役割	110
(4) NPO等民間団体の役割	111
(5) 市町村の役割	112
(6) 高知県の役割	112
2 推進体制	113
3 進捗管理	114
参考・引用文献	115
写真提供者	118
巻末資料	
1 生物多様性の保全に関わる環境関連法	120
2 生物多様性保全に対する意識調査結果	125
3 タウンミーティングの結果	137
4 生物多様性に関連する活動をしている団体（一部）紹介	141
5 想定すべき危機 ～南海地震～	143
6 生物多様性こうち戦略策定の経緯及び体制等	148
7 用語集	152